

## ○公開講座がありました

### 第1回講座 「子どもの指導で悩んだときに立ち返りたい発達理解」

講師：神戸大学発達科学部人間形成学科 教授 木下 孝司 先生

木下先生には、日々の実践の中で子どもの困った行動に悩んだり、実践の組み立てで迷ったりしたときに、大切にしたい視点についてご講義いただきました。子ども一人一人の行動の背後にある願いをくみ取ること、行動がうまくいった時にこそ、その事実をみんなで語り合うことが「子どもが愛おしくなり、実践が楽しくなる」教育につながることを、事例検証を通して気づかせてくださいました。

今回の講座では、本校職員および外部の幼小中高等学校や特別支援学校から140名以上の参加がありました。アンケートには、「2学期から子どもの見方が変わっていきそうでうれしい気持ち、楽しい気持ちが芽生えています。」「成果が求められる現場ですが、子どもの成長を楽しめる教師でありたいと思います。」など、これからの実践への抱負や感想が寄せられました。(8月8日)

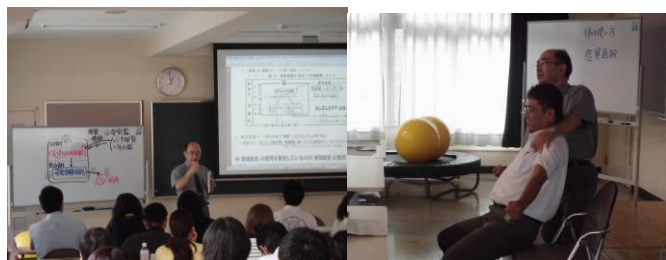


### 第2回講座「基礎感覚を育てる指導」

講師：私塾「療育塾ドリームタイム」塾長・作業療法士 木村 順 先生

木村先生には、作業療法士としての長年の経験をもとに、「基礎感覚」がもたらす学習活動や生活行動への発達の効果についてご講義いただきました。肢体不自由や重複障害の子どもはもとより、キレやすい・集中力がない・空気が読めない・読み書きが苦手といった子どもも、「基礎感覚」からのアプローチによって改善が図られる事例や活動例を多く紹介していただきました。

参加者からは、「扱いにくい子、落ち着きがない子、着席できない子、色々なことを言われて悩んでいた中で、感覚統合というアプローチによって、脳の交通整理ができるように助けていくという視点をもらい救われたような気がします。」「原因の根本をみつめるプロ意識や、育てる親への暖かいまなざしが勉強になり、また提案している遊びは、手軽で実践しやすいので、2学期から即行してみたいと思います。」等の熱心な感想が寄せられました。(8月29日)



## ○各地域の自立支援協議会から

### 【東備地域】

東備地域の備前市と和気町では、赤磐市の独立後、自立支援協議会の新たな体制づくりに取り組んでいます。

「障がい児支援に関するワーキンググループ」では、様々な関係者・機関が集まり、「今、何が必要か」から考えてニーズを把握し、新体制自立支援協議会の活動に結び付けようとしています。

「障がいのある子を持つ親のための茶話会」もその一つです。子育ての悩みなどについて語り合える場になっています。地域での保護者同士のつながりは、大きな力になることが多いので一度のぞかてはいかがでしょうか!?

### 【高梁市】

「たかはし福祉フォーラム 2016」が9月2日（金）・3日（土）の2日間に渡って高梁市文化交流館で開催されました。

2日には、吉備国際大学准教授の岡崎幸友先生が

「障害者差別解消法の願い～『あたりまえの暮らし』を目指して～」と題して基調講演をされました。当事者や保護者をはじめ、市や各事業所等の福祉関係者が熱心に聞き入っていました。

2日目の3日には、展示、販売、体験の各ブースで催しが行われました。「備中町子ども神楽」による舞いや各事業所の特色のある販売にたくさんの方が集い、とても賑わっていました。本校も展示ブースで、学校の教育活動をパネル展示で紹介してきました。



## ○図書紹介

～岡山支援学校第2回公開講座の講師で来ていただいた木村順先生の著書をご紹介します～

### 『育てにくい子にはわけがある』

木村 順 / 著

大月書店 本体1,500円+税



落ち着きがない・乱暴で加減できない・こだわりが強い・順番を待てない・姿勢が悪い・抱っこを嫌う・手をつなげない・人の話を聞けない。その原因のひとつと考えられている触覚防衛、重力不安、聴覚防衛など、感覚統合の不全について事例を示しながらわかりやすく解説します。



子どもがより豊かに成長できるように、つながりなかつた配線が少しでもつながるように、できるところからやってみよう。焦らず怒らずにと思える一冊です。

(読者評より)

〔項目〕: 1 「育てにくい」子どもたち(そういう子は昔からいた? / 「育てにくい」子どもたちの変遷 ほか) / 2 感覚情報の交通整理(脳の栄養-感覚情報/感覚情報を「交通整理」する脳のはたらき ほか) / 3 三つの「感覚」の統合とつまづき(子どもたちのよき「理解者」になるために / 「触覚」のふたつの系統、原始系と識別系 ほか) / 4 事例別アドバイス(落ち着きのないA君/ケンカがたえないB君 ほか) / 5 教育・保育・療育現場の方々へ(育てる側の心構え/子どもの「自己有能感」を育てよう ほか)